

日米医学医療交流財団 留学助成

A 項 近況報告書 (2010 年度 助成者)

作成日 2010 年 10 月 20 日

氏 名	兒子 真之
研修先機関名	Beth Israel Medical Center
研 修 期 間	2010 年 7 月 1 日から 2014 年 6 月 30 日(予定 フェローシップも含め)
現在所属機関名	Beth Israel Medical Center
分 野	Internal Medicine
役 職	Resident
	<p>私は New York にある Beth Israel Medical Center にて内科の研修を開始いたしました兒子 真之(にご まさゆき)と言います。この度は貴財団の助成に選んでいただき誠にありがとうございました。</p> <p>研修を開始して 3 か月が経過いたしました。想像以上に海外で仕事、生活することの大変さを感じておりますが、少しずつ生活に慣れてきております。New York、特に病院のある周囲は治安もよく、周囲にも日本人が多くいるため、他の地域で生活するよりも生活しやすいと思います。</p> <p>内科の研修は 3 年のプログラムで、現在は 1 年目に当たり、インターンと呼ばれております。一日の大きな流れとして、朝はローテーションしている科にもよりますが、基本的には 6 時過ぎには病棟へ行き、プレラウンドを行います。バイタルサイン等を確認し患者を一人で回診して回ります。</p> <p>7 時にはシニアレジデントが来ます。シニアレジデントは 2 年目か 3 年目で、1 人のシニアレジデントが 2 人のインターンを担当します。時には学生や Sub-intern と呼ばれる 4 年生もチームに加わります。7 時からはチームで回診し、その日の大まかな患者のプランを立てます。プランを立てた後は、インターンは、そのプランにより、コンサルトや担当医に連絡をします。患者には、担当医がおりますが、当院の場合には Hospitalist と Private の医師が担当医となります。また、教育担当の指導医も各病棟に割り当てられており、9 時ごろより約 1 時間かけて、現在自分たちが受け持っている患者をもとに、ケースプレゼンテーションや教育を行っていきます。</p> <p>12 時からは、1 時間のカンファレンスがあります。1 時からはコンサルトの返信の確認やカルテの記載などを行っていきます。何もなければ 5 時には夜間帯に引き継ぎますが、4 日ごとに回ってくる 8 時までの勤務と、入院患者の受け入れ業務により帰宅する時刻は大きく変わります。</p> <p>日本とは違い短期間の入院が多く、非常に回転が速く、人種も多く疾患の幅も日本と比べると広いと思います。また、教育に対する姿勢と時間の使い方は日本とは明らかに違い、研修の質の向上を意識した病院側の姿勢は印象的です。また、その一方で米国医療、研修の欠点も伺うこともできます。</p> <p>将来的には、米国でのフェローシップを終了した後、日本へ帰国し日本の医療現場で少しでも自分の知識と経験を生かすことができると考えております。</p> <p>今後とも何卒よろしく願いいたします。</p>